個人15

受 **《和** 5年 8月 28日 付 午前·午後 0時 05分

一般質問 (代表・個人) 通告書

令和5年8月28日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 さかえ 章演

尾張旭市議会会議規則第50条第1項の規定により 9 月定例会において 別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

- 1 質問事項 ____2 件
- 2 質問方法

	1回目 一括質問、一括答弁
	再質問以降 質問事項 (大項目) ごとに一問一答
0	1回目から 質問事項(大項目)ごとに一問一答

҆҆1 選択する方法に○を付す。



別紙

質問事項

人口が3割減っても成り立つ、これからのまちづくりについ

No. 1

7

政府は人口減少問題に危機感を持ち、今年度「こども家庭庁」を立ち上げた。 少子化に歯止めをかけるため、児童手当の拡充など異次元の少子化対策として、5年間で経済支援を中心に3.5兆円の予算を投じる方針を示された。しか し出生率向上には根本的な解決策となるのか疑問が残る。

一時的な対処療法ではなく、人口減少下で安定した暮らしが成り立つための総合的な取組が、結果として人口減少の歯止めにつながると考える。

市長は5月9日に当市に人口問題対策本部を設置し、現状把握・対応策に着手される。これを受け2つの小項目に分け質問する。

(1) 人口減少に適応できるまちづくりの必要性について

ア 少子超高齢化・人口減少の本質的な問題点と対応策の現状について

イ 「人口減少下で成り立つ、これからのまちづくり」を視点にした政策 の必要性について

要

人口が3割減っても成り立つまちのまちを実現にするには、「全国どこにいても暮らしが成り立つ社会」がキーワードだ。我が国全体の再生にも不可欠なテーマだ。

旨

近未来社会ではICT、AIなどの最先端技術の進歩のおかげでこれを可能にすることができる。くらしに将来の希望や安定感を感じれば、安心して子供を産み育てる環境ができ、自然に普通の生活に戻ることができると感じる。

そのためには、具体的に主にどのようなまちづくりが必要か。4点に分け質問する。

- (2) ライフスタイルが大きく変わる、これからのまちづくりについて
 - ア 自宅やサテライトオフィス中心のライフスタイルに対応したまちづ くりについて
 - イ 在宅医療・オンライン診療中心の医療環境に対応したまちづくりについて
 - ウ 自動運転車、ドローンによる人・モノの移動手段の変化に対応したま ちづくりについて
 - エ 地域住民参加型の地域共生社会に対応したまちづくりについて

※ 申し合わせ事項に留意する。

別紙

質問事項

No. 2

3つの地域資源活用による「人口減少下で成り立つまちづく り事業」の提案について

人口が3割減っても成り立つまちづくりを、当市はどうしたら実現できるのか。

また、将来の安定した暮らしを取り戻し、結果として出生率の増加、人口減 少や少子超高齢化に適応できるまちにするにはどうすればよいのか。

その大きな将来課題解決を目標としたまちを実現するには、当市の貴重な地域資源を有効活用することが不可欠と考える。そこで以下3つの地域資源を活用した事業提案をする。

要

남

- (1) 三郷駅前市街地再開発事業を活用した、これからのまちづくりの提案について
 - ア 「働く子育て世帯」をターゲットにした魅力創出事業について
 - イ 在宅医療、オンライン診療の拠点づくりについて
- (2) 平子の森を活用した、これからのまちづくりの提案について
 - ア 小中学校部活動の地域移行の受け皿拠点について
 - イ 教育、文化芸術を核にした人を呼び込む魅力拠点について
 - ウ 自動運転車、ドローンによる移動実験拠点について
- (3)維摩池西側市有地を活用した、これからのまちづくりの提案について
 - ア 運動と食による健康づくり拠点について
 - イ にぎわい交流と、ボランティア活動拠点について